

平成 30 年度 狛江市市民活動支援センター第 4 回運営委員会 議事録

- 1 日 時 平成 30 年 12 月 10 日 (月) 午後 7 時～午後 9 時 10 分
- 2 場 所 市民活動支援センター フリースペース
- 3 出席者 委 員 伊藤輝芳 伊藤聡子 上田英司 内海貴美 小川三男  
荻野修 千葉桂樹 佐藤新哉 松村正俊 松村雪子  
三島瑞子  
事務局 小楠寿和 高橋宗孝 斎藤あや子 白石珠美 高橋善治 日比野浩  
(50 音順 敬称略)
- 4 欠席者 委 員 青木香奈 大矢美枝子 渡辺敏政
- 5 傍聴者 1 名
- 6 議 題
  - 1 検討事項  
平成 31 年度市民活動支援センター事業計画 (骨子) 及び予算概要について
  - 2 報告事項
    - ①運営委員会委員勉強会の報告について
    - ②指定管理業務の報告について
    - ③専門部会からの報告について
  - 3 その他
    - ①指定管理 (再指定) の状況について
    - ②運営委員会欠席届について
    - ③第 2 回臨時運営委員会について
- 7 配布資料 平成 31 年度狛江市市民活動支援センター事業計画 (骨子)  
狛江市市民活動支援センター指定管理業務報告書 (9 月 1 日～11 月 30 日)  
狛江市市民活動支援センター平成 31 年度予算 (案)  
平成 30 年度市民まつりアンケート調査結果  
ホームページ部会報告 (9 月～11 月)  
体験学習部会報告 (9 月～11 月)
- 8 会議概要
  - 1 開会  
委員長からあいさつがされた。
  - 2 議題
    - (1) 検討事項  
平成 31 年度市民活動支援センター事業計画 (骨子) 及び予算概要について  
— 事務局より資料に基づき説明 —  
「報告事項①運営委員会委員勉強会の報告について」も併せて報告をした。

(委員長)

事務局より説明があったが、質問やご意見があれば伺いたい。

(委員)

事業内容の一覧と各事業の説明のところの番号を呼応するような形で記載したほうが分かりやすいと思う。

(委員長)

来年度の重点目標としてご意見はあるか。相談は毎回入れてもいいと思うが。重点目標はこれまで事務局ですべて出していたが、今回は運営委員からの意見を反映させたいという事務局側の意向もある。以前は、支援センターのPR、よりよい相談対応、情報の収集・発信というものだった。

(委員)

ボランティアのつどいはボランティア活動や市民活動に興味を持っている人へのPRの場になるが、関係者以外の人が少ない。どうしたら参加者が増えるか。もう少し、こまекぼが支援をしていくということをしてはどうか。

(副委員長)

ボランティアのつどいは実行委員会で行っているが、こまекぼも参加をしている。

(委員長)

市民参加の機会を広げる、市民活動に関する意識の向上を広げるということ、もう少し幅広くやったらどうかという意見になるかと思う。

(事務局)

ボランティアのつどいを含めて、ボランティア連絡協議会というネットワークがあるので、参加団体の皆さんと一緒に考えていく時期ではあると思う。

(委員長)

ボランティア連絡協議会とは別にこまекぼから育ってきている団体もある。それらの団体も含めて一堂に会してアピールする機会が弱くなってきたということもあるかもしれない。そうした機会も必要ということになる。

(委員)

計画の1.相談でいえば、相談を受けて活動している人は何が課題でどうなのか。今までの3年間で、どういう状況があつて、それを解決するためにこういう方法をとっていくというようにしたほうがいい。また、相談がうまくいかなかったケースとして、3年やってきて、ここの分野は蓄積されたが、ここの分野はダメだったので、この5年間はこのようにやりますという計画をたててもらおうと分かりやすい。

知名度がないというのも、どこに知名度がないのかということ。83,000人みんなにやるかと言ったらそんなことありえない。5年間やった結果、自分たちが思っていたこういうところにはこれだけ浸透することができたということと言えるといい。

ボランティアのつどいの話もあったが、それだけやるには市民が集まって相当打ち合わせて進

まないといけない。委員会を構成する人たちが集まる場所を確保することすら大変、資料を作ってもそれを置くところがない。多分、個人で持ち帰って、やる仕事は個人にになってしまうことになるというのがこういう活動の今の状況。そういうことをどうするかという案を考えて進めるということであれば嬉しい。

ボランティアの場合は、次にみんなが集まるのは2週間後とかになる。そういう中でやっているのをどうするかという案を見つけていただいてやらないと実際の活動になっていくのは大変だと思う。

ネットワークを作るといっても、ネットワークをつくる活動をやれる個々の団体（マンパワーを持っていて時間もあって場所も持っている）がないと思う。自分たちの運営で精いっぱい他と連携するのはちょっと…というところがほとんど。そこをどうサポートするか。

自分たちが推進するのではなくて、関わっている人たちがやっていくのを手伝う。代わりに事務局やりますではない。そういうところをはっきりしていただいて弱いところをやる。

経理をやれる人を集めて各団体が年度決算をやるというときに、ここからその人たちがサポートいきますよとか、やっている人たちが必要なサポートをする体制をセンターがつくる、そういう発想でやるといいんじゃないかと思う。

第三者が思うヤツタと自分たちが思うヤツタがびたりと合えばいいが、計画の目標で自分たちはここまでやったらヤツタと思うと認識してもらえるようにしたらいい。

(委員長) 57.20

それぞれ団体があるが、ネットワークのサポートまではボランティアではできないというところになるか。

(委員)

ボランティアでは限界がある。どこまでするのがボランティアかということもある。

(委員長)

先ほどのご意見もセンターの必要なサポートではないかというものになる。

(副委員長)

5か年の事業計画の内容がどんな形で反映されるか、初年度にあたるのが2019年度なので、この辺りがもう少し記載があってもいいかと思う。5か年事業計画の中に基本目標が4つあったが、それに基づいて重点計画も一緒に立てるとというのが初年度の流れとしてはいいのではないか。

(委員長)

他にご意見はあるか。

(委員)

具体的にこういう案があって意見を求められるなら言えるが、雑駁すぎて意見が言えない。たとえば、こういうことを考えているがこれについてどうですかという形ならいえる。

(委員)

ボランティアのつどいのことが出てきたり大切なことではあるが、重点目標が何になるかわからない。

( ? )

事務局としての腹案はないのか

(事務局)

事務局の中では、市民意識調査の中で、7割の人がこまえくぼを知らないという意見もあった。3か年でもセンターのPRという重点目標があったが、もう少し続けるということが考えられる。たとえば、チラシを配るだけではなく声掛けながら行うPRを増やすとか、いろいろな活動の場所へ行って5分間でもPR活動するなどの方法が考えられる。

それから、ネットワークの話も出たが、ネットワークの基礎となるものとして団体同士の交流があるので、これを活性化していく。団体の交流をもっと行うには何をしたらいいか、具体的なことについてはもう少し検討の余地があるが。

また、最近の相談の中から、行政とのつながりがうまくいっていなかったり、公民館とコラボレーションしたり、地域センターと一緒にやったら活発になっていくものもあったのではないかと感じる。それらから、他機関との連携を充実させていくということも上げられると思う。事務局内ではその辺りを検討したが、今申し上げた3つに対してご意見いただいてもいいのではないと思う。

(委員長)

事務局から具体的な目標案が出されたが、これについてご意見はあるか。

(委員)

PR活動についてだが、イベントなどに出ている、一般市民からはどこの人かということがわからない。センターの職員だと一目でわかるような、同じジャンパーやベストにするなど、動く宣伝媒体としPRするというのいいのではないと思う。

(委員)

個々の事業もあるが、市民活動を支援するうえで、全体として相談窓口があり、個人の相談、団体の相談と受けていく。それを受けて事業をやっていくというように基本的になっていると思う。全体的な計画としてはいいのではないか

(委員)

市民が困っていることがあって、市民と行政と一緒にやるときにつなぎ役としてまとめていくのが支援センターだと思う。支援センターに相談に来てもらうようなことがあってからがメインの仕事になる。相談に来てくれなかったらわからない。困ったら支援センターに来たらいよいよということをどう知らせるか。

市が市民と一緒にやり始めた事業を終了するときに、辞めずに続けたほうがいいものに対して、やってもいいという市民がいることで、その事業を継続した例もある。市から市民へ投げかける、そういう相談を考えてもいいのではないか。

(事務局)

その一つの例として、今夏に公民館が子どもの居場所事業をやった。単なる場所の開放ではなく、学習をする場所、食事を提供するという2つをテーマにしたもので、その時に公民館から相

談があった。短時間でいろいろな課題はあったが、そうした実例的なことは今年初めて実施した。

団体から行政に投げかけるものとしては、継続的に活動するための場所の確保の問題が大きい行政と相談しながら公共施設をうまく活用できる場所は使用できるように、仲立ちとして団体と行政を結び付けていくということも大事なことだと思う。行政と協働するという形のものでできればもっと活動の幅も広がるし、行政も職員だけでやるのではなく、市民と一緒にやるという協働の精神が広がっていくのではないかと考える。

(委員)

スタッフが少ない中でこの役割は何だろうかと考えると、情報の集約と発信だと思うが、どのように集約してどのように発信してPRするか。団体のマッチングや交流などの課題もあるが、情報の発信だと思う。

狛江市全体で考えるとイベントや行事、勉強会等いろいろなところでいろいろなことが行われている。でも、それを集約しているところがない。

人を集めたいという団体は支援センターに連絡して、支援センターはそれをホームページに載せる、市民はホームページにアクセスすれば、市内の様子が一目でわかる。そういうシステムを構築していけば、自分の興味がある団体の活動がいつでもどこであるのかがわかって、そこに行ってみようかと思うし、団体同士の交流も図れる。

そういう具体的であり難しくないところから考えてもいいのではないか。

(委員)

5か年計画に基本目標が4つあるので、ここから離れるとおかしい。1年目は何を中心に取り組むかということだと思うが、わかりづらい。

(委員)

どれが重点といってもどれも必要なもので、どれか重点にしたらあとやらないわけではないが、相談と情報発信、知ってもらうということになるのではないか。

(委員)

以前、公民館や地域センターが把握している団体の情報の持ち出しができないという話があったと思うが、PRに重点を置くとしたら、その理解を得て団体の情報を増やすということも一つあるのではないかと思う。

(事務局)

ハードルが高いこともあり、いろいろなところで活動している団体の登録の一元化というかたちがとれていない。

(委員)

一般の団体、支援センターとは関係のない人たちも情報を載せることによって、つながっていく。だれもが情報を載せられる気楽さがあるといい。制約したらその時点で終わり。逆にそれをやることによって支援センターに登録している団体のことを知って交流してみようとか、こんなことを支援してくれるのかなどが気付かれていく。いろいろな垣根を取っ払って情報を集約することで次につながっていく。

(委員)

支援センターが必要ないところは必要ないと思う。活動をしている人がここを使いたいと思って、それを発信していかない限りは増えていかない。大事なことは、そこを使った人が、ぜひここを使いたい、個人でも組織でも、使いたいと思ったらここに登録するということだと思う。ここを使ったらお得ですよというような発想に変えていただきたい。

活動をしている人にとっては支援センターの知名度が上がらなくても、自分たちが困ったことを支援センターに来たら何とかなるほうがいい。相談で受けている事例もいろいろあると思うので、それをPRしたほうがいい。

(委員長)

いろいろご意見が出たのでそれを参考にして骨子案を出していただきたい。すべてが反映されるとは限らないが、できる限り計画に組み込んでいただきたい。

(委員長)

以上検討事項は以上だが、山岡先生からひと言いただきたい。

(アドバイザー) 1.28.10

先ほど話のあった公民館の子どもの居場所事業の仲介など、一緒にになってできるのはよいと思う。事業計画というと抽象的になるが、一つ一つの事業を紹介して事業分析などしていくと支援センターの姿が見えてくる。事例検討会のような形での議論もあっていいのではないか。「こまねがお」の記事を見ながら議論してみることもいいと思う。

9月から11月の利用者数は減っているか

(事務局)

ここ最近では500～600くらいになっている。

(アドバイザー)

平均して月20人くらいになるが、キャパシティから考えてもこのくらいがいいのではないか。利用実態のデータを取っているので、データをみんなで読みあう。できるだけ具体的に活動の姿が見える議論になるといいと思う。相談の対応も、整理されていてわかる。姿が見えるような事例報告をするといいと思う

(事務局)

調査・研究については31年度は実施せず1年遅らせることとなったため、業務委託費と人件費については、以前報告した予算案から若干の変更となっている。

(委員長)

協議事項は以上とする。

## (2) 報告事項

### ①運営委員会委員勉強会の報告について

—検討事項と合わせて報告したため、省略—

②指定管理業務の報告について

—資料に基づき、事務局より説明—

質問は特になし。

③専門部会からの報告について

—資料に基づき、事務局より説明—

■体験学習部会

- ・体験学習カードの作成中
- ・地域での体験学習会の実施

10/6 暮らしフェスタ参加

11/1 元和泉2.3丁目町会

11/25 セントラルハイツ老人会はなみずき会

■広報部会

- ・広報誌「こまえがお」第6号を発行した。
- ・11/18 市民まつりでアンケート調査とともに配布してPR
- ・取材先としておすすめの方がいれば、ご紹介していただきたい。

■ホームページ部会

- ・ホームページ説明会

9/12 上泉地域センター

12/6 こまえくぼ

質問は特になし。

(委員長)

報告事項は以上とする。

3 その他

① 指定管理（再指定）の状況について

- ・12月の議会議案として上程されている。今月の議会で再指定が決定される。

② 運営委員会欠席届について

- ・11/8に監査があり、運営委員会を欠席する場合の取り扱いについてのアドバイスがあった。要綱上では書面をもって欠席とみなすとされているので、欠席届兼委任状を出していただきたい。

③ 第2回臨時運営委員会について

臨時運営委員会候補日 2月13日（水）または2月20日（水） 19時～